

(別紙 1)

平成 1 9 年度情報化促進貢献個人等の表彰

1. 平成19年度情報化月間情報化促進貢献個人表彰（計15件）

経済産業大臣表彰「情報化促進部門」（5件）

| 氏名 | 所属 | 業績 |
|-----------------------------------|---|--|
| 有賀 貞一 <small>あるが ていいち</small> | 株式会社CSKホールディングス 代表取締役 | 産業構造審議会情報経済分科会情報サービス・ソフトウェア小委員会人材育成WGの委員長として、高度IT人材育成策をとりまとめたほか、独立行政法人情報処理推進機構のITスキル標準改訂委員会の委員長として同標準の改正に尽力するなど今後のIT技術者育成政策の策定に大きく貢献。 |
| 河端 照孝 <small>かわはた てるたか</small> | 財団法人日本情報処理開発協会 特別顧問 | 昭和42年に我が国初のコンピュータ専門の総合誌「月刊コンピュータピア」の創刊に尽力。誌面を通じて国民に情報技術や情報政策の普及を促進するとともに以後の情報ジャーナリズムの確立に先導的役割を果たす。また、教育用コンピュータ専門のレンタル会社である日本教育情報機器㈱の創設に尽力し、学校教育現場のコンピュータ導入及び情報処理教育環境の整備に大きく貢献。 |
| 棚橋 康郎 <small>たなはし やすろう</small> | 新日鉄ソリューションズ株式会社 相談役 | 社団法人情報サービス産業協会会長をはじめ社団法人経済団体連合会等各種団体の役員・委員を歴任し、情報サービス産業界の発展に尽力。また、産業構造審議会情報サービス・ソフトウェア小委員会委員として「情報システムの信頼性に関するガイドライン」や「情報サービス・ソフトウェア産業維新」等の策定に大きく貢献。 |
| 原 量宏 <small>はら ひろひろ</small> | 香川大学医学部附属病院医療情報部教授 | 香川地域において遠隔医療を実施するための医療機関のネットワークである「かがわ遠隔医療ネットワーク」の設立に先導的役割を果たす。同ネットワークの設立により地域の中小病院・診療所でも患者が大規模病院と同等の診断を受けることが可能となるなどITの活用による地域の医療格差の是正に大きく貢献。 |
| まつもと ゆきひろ | 株式会社ネットワーク応用通信 研究所特別研究員 楽天株式会社技術研究所フェロー | 記述方法が単純だけでなく過去に作られたプログラムを部品として再利用することを容易とする機能に優れるなど、プログラムを効率的に記述することができるソフトウェアプログラミング言語「Ruby」の開発により、ソフトウェア開発の生産性の向上に大きく貢献。 |

経済産業大臣表彰「IT投資効率化促進部門」（1件）

| 氏名 | 所属 | 業績 |
|------------------|----------------------|--|
| おがわ よしみ 小河 義美 | ダイセル化学工業株式会社 執行役員 | 熟練オペレータの持つノウハウの知的財産化及び「知的統合生産システム」を構築し、より均質できめ細やかな操業を可能にし、原価低減、品質の安定化、技術技能伝承力の強化、省エネルギー操業等、様々な付加価値を創造。また、同生産システムを自社で使用するだけでなく、他社にも外部展開することにより、多様なニーズ・ノウハウの更なる蓄積及びシステムの進化を図っており、オープンイノベーションの進展に寄与。こうした一連の取組を先導的に実施。 |

経済産業大臣表彰「情報セキュリティ促進部門」（1件）

| 氏名 | 所属 | 業績 |
|-------------------|---------------------------------|---|
| なえむら けんじ 苗村 憲司 | 駒澤大学教授 情報セキュリティ大学 院大学客員教授 | 平成16年より、ISO/IEC JTC1/SC27/WG2（暗号とセキュリティメカニズムの標準化会合）のコンビーナ（主査）を務め、各国から提案された暗号アルゴリズムについて国際標準化を実施。特に、日本提案の6種類の暗号アルゴリズムについては、5種類が国際標準化、1種類が標準暗号の補助関数とされるなど、我が国の暗号技術の国際的な認知度向上にも大きく寄与。 |

経済産業省商務情報政策局長表彰「情報セキュリティ促進部門」（2件）

| 氏名 | 所属 | 業績 |
|-------------------|-----------------------------------|--|
| ほしざわ ゆうじ 星澤 裕二 | 株式会社セキュアブレイン プリンシパルセキュリティアナリスト | 情報セキュリティ技術者等のコミュニティにおいて、サイバー攻撃に用いられる技術に関する分析・解析の研修等を積極的に実施し、知見を共有するなど、我が国の情報セキュリティ技術者の技術レベルの底上げに尽力。また、情報セキュリティ関係機関に対する適時の解析技術情報や対策情報の提供などを通じて、民間ベンダーやサービス事業者、一般ユーザー等の情報セキュリティ対策に大きく貢献。 |
| まつもと やすし 松本 泰 | セコム株式会社 I S 研究所 主席研究員 | 非営利団体の技術ワーキンググループリーダーとして、技術セミナーや普及啓発セミナーなどを企画、開催し、電子政府における電子入札、電子申請等の手続に用いられる電子署名に必要不可欠な技術である P K I を中心とした認証基盤技術の向上、普及に貢献。また、大学の客員教授として P K I に関する講義を実施するなど、我が国における情報セキュリティ技術者の育成にも尽力。 |

総務大臣表彰「情報化促進部門」（3件）

| 氏名 | 所属 | 業績 |
|------------------------|------------------------------|---|
| あおやま 青山 ともりのり 友紀 | 慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構教授 | 「次世代高度ネットワーク推進会議」（事務局：情報通信研究機構）幹事会代表幹事として、超高速・高機能研究開発テストベッドネットワーク（JGN2）の運営及び研究開発の推進に尽力するなど、我が国の情報化促進に多大な貢献。 |
| おおしま 大島 よしかず 義一 | 財団法人デジタルコンテンツ協会事務局長 | 行政情報化要員の研鑽の場として関係省庁により構成された「電子計算機利用に関する技術研究会」の幹事等主要メンバーとして、各省庁からネットワークを通じて直接利用することのできる行政管理庁電子計算機共同利用施設の法令検索システムの開発を行うなど、行政情報化の促進に多大な貢献。 |
| はっとり 服部 たけし 武 | 上智大学理工学部電機・電子工学科教授 | 情報通信審議会携帯電話等周波数有効利用方策委員会主査として、携帯電話の普及及び利用拡大に向けた、使用可能周波数帯の拡大や高度化に必要な技術的条件の策定等に寄与するなど、我が国の情報化促進に多大な貢献。 |

総務大臣表彰「情報セキュリティ促進部門」（1件）

| 氏名 | 所属 | 業績 |
|------------------------|--------------------|--|
| ささき 佐々木 良一 りょういち | 東京電機大学情報メディア学科長・教授 | 「次世代IPインフラ研究会」（総務省）の「セキュリティWG」のリーダー及び「暗号技術検討会」（総務省・経済産業省）の「暗号調達ガイドブック作成WG」のリーダーを務める。 次世代IPインフラにおける情報セキュリティ確保に向けた政策の在り方をまとめた「情報セキュリティ政策2005」の策定及び各府省の調達担当者向けの暗号アルゴリズムの選定手順や電子政府推奨暗号等を解説する手引書「暗号調達のためのガイドブック」の策定に寄与するなど、我が国の情報セキュリティ促進に多大な貢献。 |

総務省情報通信政策局長表彰「情報セキュリティ促進部門」（1件）

| 氏名 | 所属 | 業績 |
|------------------|----------------------------|--|
| なかお こうじ 中尾 康二 | KDDI株式会社運用統括本部情報セキュリティフェロー | 「電気通信分野における情報セキュリティ対策協議会」（事務局：（財）マルチメディア振興センター）会長及び「テレコム・アイザック推進会議」（（財）日本データ通信協会）の中核メンバーを務める。電気通信分野における横断的な情報共有及び情報セキュリティ対策の取組の強化に多大な貢献。また、ITU-T活動において、SG17（情報セキュリティ関連議題）のラポータ（研究課題の責任者）を務め、国際標準化活動に多大な貢献。 |

国土交通大臣表彰「情報化促進部門」（1件）

| 氏名 | 所属 | 業績 |
|-----------------------|------------|---|
| あさの しょういちろう 浅野 正一郎 | 国立情報学研究所教授 | 公共交通運行情報提供システムの整備に尽力されるとともに、国土交通分野におけるイノベーションの推進、システムの最適化に協力するなど、国土交通分野の情報化の推進に多大な貢献。 |

2. 平成19年度情報化月間情報化促進貢献企業等表彰（計15件）

経済産業大臣表彰「情報化促進部門」（4件）

| 企業等名 | 代表者 | 業 績 |
|---------------|-------------------|--|
| 株式会社インクス | 代表取締役社長 山田 眞次郎 | 金型製造に係る3000を超える業務フローを徹底的に分析した高度な生産管理システムの開発等により自社の製造リードタイムを1/10に短縮するなどITを活用した高度な経営を実現。また、部品・部材製造業40数社に一連のシステムの導入を支援し、導入先のリードタイムを平均で1/5に短縮するなど、IT活用による製造業の生産性の向上に大きく貢献。 |
| 株式会社シーエスアイ | 代表取締役社長 赤塚 彰 | 医療従事者の業務フローを徹底的に分析し医療現場のニーズや業務実態に即した電子カルテシステムを開発しIT技術を活用した医療の高度化に大きく貢献。平成8年に札幌で創業したベンチャー企業ながら平成18年には電子カルテシステム市場で高いシェアを獲得するなど、地方における中小・ベンチャーの創意・工夫による競争力強化の事例として他の範となりうる。 |
| ソフトイーサ株式会社 | 代表取締役会長 登 大遊 | 利用者が安全かつ高性能なVPN（Virtual Private Network：仮想プライベートネットワーク）を専門知識が無くとも容易に構築できるソフトウェアを開発。現在数千超の企業等で導入されるなどネットワーク利用者の利便性の向上に大きく貢献。 |
| ビジネスオンライン株式会社 | 代表取締役 藤井 博之 | 我が国ではじめて中小企業向けにインターネットを活用した会計ソフトウェア提供サービスを実施。専用システムの構築が不要であること等からITに関する専門的知識や資金が少ない中小企業にも利用が容易であり、平成12年のサービス開始から今日まで7万社以上の中小企業が利用するなど中小企業のIT活用の推進に大きく貢献。 |

経済産業大臣表彰「IT投資効率化促進部門」（2件）

| 企業等名 | 代表者 | 業 績 |
|---|---------------------------|---|
| 住友商事株式会社 | 取締役社長 加藤 進 | 商社流通業向けの標準ソフトウェアを、ユーザーとしての立場から共同開発するとともに、IT分野における非競争分野について自社システムを同業他社へ展開。IT投資効率化に寄与。 |
| 地銀システム共同化「Chance」（三菱東京UFJ銀行、常陽銀行、百十四銀行、十六銀行、南都銀行、山口フィナンシャルグループ） | 株式会社三菱東京UFJ銀行 頭取 畔柳 信雄 | IT投資の増大、システムの大規模化・複雑化・広域化等が進む金融業界において各行のコスト削減が求められている状況にあって、各行の独自性を活かしながら、メガバンクシステムをベースとした地銀システムの共同化を実施。システム経費削減効果を生んだほか、地方銀行におけるIT対応力の拡充等にも寄与。 |

経済産業大臣表彰「情報セキュリティ促進部門」（1件）

| 企業等名 | 代表者 | 業 績 |
|---------------|-------------|--|
| 情報セキュリティ大学院大学 | 学長 辻井 重男 | 情報セキュリティに関する高度な専門教育研究機関として、情報セキュリティに関する知識を体系的に提供する大学院課程を設け、人材育成を通じた我が国の情報セキュリティの向上に著しく貢献。また、専門教育研究機関の知見とリソースを有効活用して、外部に対しても数多くの公開講座やシンポジウム等を実施するなど、一般利用者等の情報セキュリティ知識の向上にも寄与。 |

経済産業省商務情報政策局長表彰「情報セキュリティ促進部門」（3件）

| 企業等名 | 代表者 | 業 績 |
|-------------------|---|---|
| 上田市マルチメディア情報センター | 所長 清水 卓爾 | 「インターネット安全教室」を多数開催し、情報セキュリティに関する普及啓発に尽力。また、子供から年輩の方を対象としたパソコン講座を開催するなど、地域に密着した草の根的な活動を継続的に実施し、市民の情報セキュリティ知識の向上に大きく貢献。 |
| S B システム株式会社 | 代表取締役 磯田 和良 | ファイルをビット単位に分散して保存する情報セキュリティ技術を開発。平成15年に福井市で創業したベンチャー企業でありながら、平成19年度には当該技術に係る我が国の特許を取得するなど、地方における中小・ベンチャーの創意・工夫による競争力強化の事例として他の範となりうる。 |
| 株式会社サイバー・ソリューションズ | 代表取締役社長 Glenn Mansfield Keeni <small>グレン・マンズフィールド・キーニ</small> | 東北地域の産学官連携による技術が国際標準に認められるなど、地域の情報セキュリティ技術向上を牽引するとともに、情報セキュリティ技術者の育成に大きく貢献。また、講演等を通じ、県内企業及び自治体の情報セキュリティに関する意識向上及び対策の推進に寄与。 |

総務大臣表彰「情報化促進部門」（3件）

| 企業等名 | 代表者 | 業 績 |
|------------------------------------|----------|--|
| きゃん CANフォーラム | 会長 國領 二郎 | 地域情報化の取り組みをサポートするために、各地域での経験や情報を持ち寄って交流する「プラットフォーム」となる組織として、地域情報化に関するセミナー、イベント、シンポジウム及び研究会等を開催（共催、後援等を含む）し、地域情報化に資する普及・啓発に多大な貢献。 |
| データレゼボワールIPv6 / IPv4 TCPデータ転送実験チーム | 代表 平木 敬 | 我が国の超高速・高機能研究開発テストベッドネットワーク（JGN2）を始め、世界各国のテストベッドネットワークを相互接続し、超高速大容量・長距離データ伝送の実験を実施し、インターネット通信速度の世界記録を数次にわたり樹立・更新するなど、我が国のネットワーク技術研究において先導的役割を果たし、情報化の促進に多大な貢献。 |
| モバイルコンピューティング推進コンソーシアム | 会長 安田 靖彦 | 携帯電話・PDA・ノートパソコン・無線LAN等をはじめとするモバイルコンピューティングシステム関連のシステムの構築、運用改善等を行うことができる高度な技術的知識をもつシステムエンジニア、コンサルタント等の人材育成をするため、「モバイルシステム技術検定」の実施を行うなど、我が国の情報化の促進に多大な貢献。 |

総務省情報通信政策局長表彰「情報セキュリティ促進部門」（1件）

| 企業等名 | 代表者 | 業 績 |
|-----------------------|----------|---|
| インターネットの安定的な運用に関する協議会 | 代表 甲田 博正 | サイバー攻撃等のネットワークに対する攻撃について、通信の秘密の保護に最大限配慮しながら電気通信サービスの円滑な提供を確保することを目的として、「電気通信事業者における大量通信等への対処と通信の秘密に関するガイドライン」を策定（平成19年5月30日）するなど、インターネットの安定的運用の確保に貢献。 |

国土交通大臣表彰「情報化促進部門」（1件）

| 企業等名 | 代表者 | 業 績 |
|---------------|-----------------|--|
| 東日本旅客鉄道株式会社 | 代表取締役社長 清野 智 | 東日本旅客鉄道株式会社の非接触式ICカード乗車券「Suica」とPASMO協議会の非接触式ICカード乗車券「PASMO」の相互利用により、首都圏のほとんどの鉄道及びバス事業者の路線を1枚のICカード乗車券で乗り降りができるシームレスな交通サービスを実現し、首都圏の広範囲にわたる基幹的な公共交通網の情報化と利用者利便の向上に多大な貢献。 |
| P A S M O 協議会 | 会長 石橋 正男 | |

3. 平成19年度情報化促進貢献情報処理システム表彰（10件）

情報化月間推進会議議長表彰

| システムの名称／表彰対象者 | 表彰理由 |
|--|--|
| <p>「RFIDタグを活用した鉄道電気設備の検査システム」 ／東日本電気エンジニアリング株式会社 竹下昭、川口彰、笈友彦</p> | <p>検査設備に貼ったRFIDタグを活用し、鉄道電気設備を検査するためのシステム。 RFIDタグの設備IDで識別した検査設備の前回検査データ、基準値、留意すべきチェック項目等をPDA端末に表示しながら検査を実施することで、人のスキルに依存した検査品質を均一にし、間違いのない確実に効率的な検査が実施できる。また、現場からPDA端末で直接データ入力を行うことにより、作業効率化にも寄与している。 RFIDの交通機関設備のメンテナンスへの応用は、鉄道という重要インフラの安全性を確保するために大きく貢献している。</p> |
| <p>「看護支援システム「ナース物語」シリーズ」 ／マルマンコンピュータサービス株式会社</p> | <p>看護実践の視点で開発した看護業務支援ソフトウェア。 看護師の視点から看護計画管理・指示管理など看護業務支援、患者認証システム、あるいは勤務管理など、看護業務全般について、他社に先駆けてシステム化を実施している。看護業務プロセスの標準化によりケアレベルを平準化することで、看護サービスレベルの向上及び患者満足度向上に貢献。</p> |
| <p>「Crack Proof（クラック・プルーフ）」 ／株式会社ハイパーテック</p> | <p>ソフトウェア的財産を違法コピーやクラッキングから守るために、実行プログラムのセキュリティ強度（耐タンパ性）を高めるソフトウェア。 コンセプト自体が先進的であり、あらゆるクラッキング手法の解析と学術的理論に基づくセキュリティ技術は非常に高い水準にあり、他社の追随を許していない。ファイルレベルの静的解析はもとよりプログラム動作中のデバッグによる動的解析からも効果的に防御できる点が高く評価されている。</p> |
| <p>子供見守りサービス <small>わらび</small> ／蕨 ケーブルビジョン株式会社</p> | <p>平成18年9月より、独自サービスとして、「子供見守りサービス」を市内一部エリアに提供。また、平成19年4月からは基地局数を拡大し、今後、蕨市内にある全小学校へ通学する児童を対象に、「子供見守りサービス」を提供する予定であり、国民の地域情報化に多大な貢献。</p> |
| <p>「次世代勘定系システム（BankVision）」 ／株式会社百五銀行</p> | <p>日本ユニシスとの共同開発により、地方銀行向けの勘定系システム（オン・バッチ処理を含む）を完全なオープン基盤で実現したバンキングシステム。 オープンシステムによる柔軟なスケーラビリティを確保しつつ、ミッションクリティカル業務に耐える信頼性・安全性、性能を実現している。また、オブジェクト指向によるカプセル化等により、開発生産性を約30%向上、オープン基盤の採用により開発コストも従来比約30%の低減を実現したことから、オープン基盤でミッションクリティカルシステムを構築する先進的事例といえる。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>「芯線管理システム」 ／株式会社ケイ・オプティコム</p> | <p>通信サービス事業を進める上で必要不可欠な光ファイバ設備の構築業務から管理・運營業務までを一貫して支援する情報システム。膨大かつ複雑な光ファイバ網のデータを効率よく管理し、管理図面（地図）を含む工事設計書を自動生成するシステムは他に類を見ない。従来は人手で行っていた設計作業のシステム化により、回線開通までの期間を半分以下に短縮、コストも30～40%程度削減するなど業務効率化に加えサービス品質の向上を成し得ている。</p> |
| <p>「船舶動静広域監視・解析システム」 ／国土交通省国土技術政策総合研究所港湾研究部港湾計画研究室</p> | <p>船舶のAIS（Automatic Identification System：船舶自動識別装置）から発信される情報を複数の陸上受信局において受信し、世界的なデータベース（ロイズデータ等）と統合処理することにより、船舶の動静（船舶の航行、離着棧、係船、沖合停泊、避泊等）を広域的かつリアルタイムに監視するとともに、海域の効率的利用のためのデータ解析を実現したシステム。情報の提供手段としてインターネットを活用したことにより、情報へのアクセスフリー・コストフリーを実現し、海上工事等の安全性・効率性の確保・向上に貢献。</p> |
| <p>「東京アメッシュ」 ／東京都下水道局</p> | <p>東京都下水道局が的確な雨水排除のために設置したレーダー雨量計測システム。 国内気象レーダー最小サイズとなる250mのメッシュで東京都周辺の降雨状況を把握できる。今年度、近隣自治体の降雨情報を取り入れ、更なる精度向上を図った。 本システムの降雨情報をインターネットにて提供することにより、誰もが、居住する地域の降雨状況を把握し浸水への備えを講じることができるようになった。降雨情報は広域かつリアルタイムで提供しており、これほど精細に観測データを収集して一般公開しているシステムは他に例を見ない。また、サービス開始からアクセス数が順調に伸びていることは降雨情報提供の有用性を実証している。</p> |
| <p>「HOYAグローバル・システムにおけるインフラ環境の仮想化」 ／HOYAサービス株式会社</p> | <p>ITインフラを仮想化することでビジネスの優先事項に迅速に対応することができる環境を実現したシステム。日本のデータセンタに設置されながら、地域別、言語エリア別の12サーバに分散されていた海外28カ国70法人のサーバ群を7サーバに統合し、その後仮想化技術によりITインフラ資源の利用効率と生産性の向上を具現化した。仮想化技術を大規模システムに適用し、作業のリードタイム削減および運用コストの低減を実現するなど、技術的、経済的にも優れている。</p> |
| <p>「prezvision（プレジビジョン）」 ／ソフトアドバンス株式会社</p> | <p>本格的な3Dアニメーションをビジネスプレゼンテーションに応用したソフトウェア。 2枚のスライドの各図形の差分を自動検出し、切り替え中にその差分を徐々に見せることでアニメーションを自動生成する“シームレストランジション”機能により、非常に簡単に3Dプレゼンテーションが作成できる。3Dアニメーションによる聴衆へのインパクトは特筆すべき点であり、ビジネスプレゼンの新しいジャンルを開拓し世界的に広く使われる可能性を感じさせる。</p> |